

2022年8月14日 説教『キリストに従う道』

高橋克樹

牧師

申命記10章12節〜11章1節、マルク福音書9章42〜50節

今日のテキストには、地獄という言葉が出てきます。43〜45節では「両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。もし片方の足があなただをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったままで地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい」と言われていて、地獄に行くくらなら、身体を失った方がましだと言っている方がイエスによってなされています。その後も地獄に行くことがいかに良くないかと言うことが繰り返し語られています。私たちキリスト者は信仰生活の中で天国のことは語っても、地獄に行かないために日常生活を正さなければならぬという脅迫的な言い方を自分に対しても他者に対してもしませんが、信仰生活を正すために、地獄を脅迫の道具にはしないのです。

安倍前首相の事件を契機として、旧統一教会と自民党との関係が問題化されています。旧統一教会の洗脳方法は、その人自身に罪がなくても(罪の自覚がなくても)、その人の7代前までの先祖が何らかの罪を犯していたかもしれないことが、今の自分の人生に影響を与えているという脅迫をすることで、お金を献金というかたちで巻き上げるものです。

先祖が地獄の一種である霊界で苦しんでいるのを救うためにお金や財産を統一教会に捧げなさいと言うのです。そして、地獄に苦しむ先祖をメシアである文鮮明が救うという偽情報を信じ込ませる手法でマインドコントロールをしていくわけです。現在は世界平和統一家庭連合という宗教学法に名称を変えて活動しています。青戸でも、家庭連合の名前でシンフォニーホールでクリスマス礼拝を開催しています。私が青戸教会に赴任したところには、青砥駅でうその募金をしていました。私はその募金が統一教会に若者であるとすぐに分かったので、『あなたたちは統一教会で、嘘の募金をしているでしょう。止めなさい』と何度か注意しました。注意を何度かすると、いなくなりました。どうして、統一教会の偽募金と分かるかと言うと、着ている服が薄汚れているのです。というのも、彼らはアパートで集団生活をしていて、食事もパンの耳で過ごしているのです。風呂にもあまり入ることがないので、身なりが薄汚れているのです。そういう苛酷な生活を送っているのはかわいそうなのですが、いずれにしても人をだましているのです。注意をします。注意をすると、だいたい沈黙をしてしまいます。また、そういう偽募金をしているグループには、監視役の男の人が近くにいて、私のような注意をする人への対応をするのです。そういう警護をする人が出て来ると、私は統一教会だということが確信できるわけです。

昨年の12月にもシンフォニーホールで家庭連合がクリスマス礼拝を開催するというチラシを見たので、葛飾区の担当者に家庭連合が旧統一教会で、このような反社会的集団に公共施設を貸すのは問題があると忠告しました。担当者は家庭連合が旧統一教会であるということを知らなかったようで、反応はいまいちでした。おそらく、統一教会が靈感商法で問題を起こしていたことも知らなかったと思われる。1

とでしよう。

おそらく、これだけ家庭連合が問題になったことで、これまで以上にお金を集める手法が巧妙になると思われます。信者に借金をさせても献金を強要するわけですが、そういう信者を手に入れるために、これまでも偽アンケートを駆使して信者に引き込むことをしてきました。クリスマス礼拝や、クリスマスパーティーなどで人を集めて、信者に引き込むことをしてきました。偽募金ではあまりお金を集めることができないので、基本は信者にしてからお金を巻き上げるのが主な手法です。日常生活品を無料で配布するとかの方法で、人を集めて、その中から信者にしやすそうな人を見つけたのが主流になるでしょう。いろいろな手法で人を集める集団を、私たちの周囲で見つけたら、旧統一教会ではないかと疑ってみることも必要になって来るでしょう。

さて、本日のテキストに戻ります。イエスは、42節で「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまづかせざる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい」と言われていますが、そのようにイエスが言った発端は、38節以下にあるように、弟子のヨハネがイエスの名前を使って悪霊を追い出している者を見たけれども、その人物が私たちに従わなかったので、弟子たちは止めさせようとしたのです。それに対してイエスは、イエスの名によって悪霊を追い出している者の行為を止めさせる必要はないと言ったのです。確かに、イエスに従ってこなかったけれども、イエスの名によって悪霊を追い出す業を為している者は、中途半端な存在で弟子と言うことはできないかもしれないかもしれません。しかし、そのような中途半端な弟子ということができないような小さな者をつまづかせることはないとイエスは言うのです。

私たちはイエスを信じる者です。しかし、すべてを捨ててイエスに従っていく弟子のような生き方をすべての者ができる訳ではないのです。日常生活では人間的な責任や果たすべき使命があります。それでも、イエスの名によって人々に祝福を与える存在になろうとしているのです。それがキリストに従う者の現実の姿なのです。そういう存在がイエスによって「これら小さな者」と言われた存在なのです。他者に対してイエスの父なる神の名による祝福を与えていく存在が私たち信仰者なのです。それは、イエスの名によって悪霊を追い出すような祝福の仕方ではありませんが、現代においてキリストに従う者にとっては、いろいろな意味で他者を祝福する方法をなしていくことが求められるのです。たとえば、直接に他者の存在を祝福するのではなくても、その存在の尊厳を守るように接していくことも、間接的に祝福することになります。悩みを丁寧に聴くことも間接的に祝福する行為と言えるでしょう。そういう小さな業を為していくことが他者を祝福する行為となっていくのです。イエスの時代のように、イエスの名によって悪霊を追い出すことはできなくても、同じ意味で悪霊を追い出すことに類すること、つまり他者を祝福することはできるのです。